

【包括的環境要因調査票準拠】

在宅要支援・介護高齢者を対象とした

要因別介入ガイドライン

財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団第18回研究助成

1. 安心生活環境に対する介入ガイドライン

①落ち着いた気分でいられる環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	日中一人になる事が多い	デイサービスなどの紹介により、仲間作りなどの支援をする	
2	ケアマネジャー 支援相談員 ケアワーカー	同居家族の人数が多く、自宅で落ち着けない	通所サービスの利用を促し、自分の時間を楽しめる環境を作る	
3	支援相談員 ケアマネジャー	通所サービス利用時、険悪な雰囲気の関係の利用者がいる	通所サービスの曜日等の見直しをし、楽しく通所できるように設定する	あくまで利用者には平等に接する
4	作業療法士	テーブルクロスの様子が「虫に見える」ので気分が悪くなる	視力や認知機能の低下によってそのように見えるのかもしれないことを家族に伝え、模様のないものに交換する	クロスの変更前に他の模様に対する反応も確認する
5	ケアマネジャー	配偶者との仲が良好でなく、時に暴言を吐くことがある	ショートステイや通所サービスの利用を促し、本人が負担を感じる人物と別の環境で過ごす	
6	作業療法士 ケアマネジャー	高齢者夫婦の生活に不安がある	不安を聴取する。不安に対する改善策があれば、検討する。ケアマネジャーにも相談して、改善策を検討する	

7	ケアマネジャー	独居生活での不安が大きい	安心して生活が送れるよう、居宅系施設の紹介を行い、手配する	不安に思う内容を対象者より十分に聞き取りを行う
8	ケアマネジャー	家族関係が不良で、居心地が悪い	通所サービスの利用を提案し、自宅と異なる安心できる場・時間を提供する	

②必要な援助を受けられる環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	どういった援助があるかわからない	何がしたいのかを明確にし、簡易なパンフレットの配布や紹介を行う	
2	ケアマネジャー	外出はしたいが交通手段に迷う	介護タクシーなどを紹介や手配を行う	公共交通手段の利用やリハビリの実施も検討する
3	ケアマネジャー	家族が旅行に行ってしまう、自宅で一人になってしまう	老健等の支援相談員と連携を取り、利用者に短期入所などを勧める	
4	ケアマネジャー 支援相談員	身体能力等が低下し、自宅で入浴できなくなってしまった	ケアマネジャーと支援相談員で連携を取り、通所サービスで入浴ができるように設定する	
5	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士 ヘルパー	買い物に一人で行けない	身体能力などの評価をし、ホームヘルパーの導入やシルバーカーなどのレンタルの手配をする	
6	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	同居家族がいるが、夜間1階の居室で休むため緊急時に不安を感じる	住環境を評価し、無線ナースコールの紹介をする	

7	ケアマネジャー	家族に運転のできる者がいないため、通院が困難である	援助が必要な内容を明らかにし、適切な人やサービスを手配する	
8	作業療法士 ケアマネジャー	在宅生活に不安を抱いている	ショートステイや通所サービスの利用によって、不安の原因を聴取し、精神的なサポート等を行う	
9	ケアマネジャー 作業療法士	銭湯での入浴が不安である	援助が必要な内容を評価し、申し送りし、サービス手配を行う	
10	ケアマネジャー	高齢者のみの世帯で、食事の準備に支援が必要となる	買い物、実際の食事の準備など、ホームヘルプサービスなどの適切な支援体制を手配する	

③快適で使いやすい住居環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	ドアの敷居や玄関部分に段差がある	敷居を撤去し、玄関部分に手すりを設置する	身体機能と住環境の評価を十分に行う
2	作業療法士 理学療法士	浴槽に入れない	埋め込み式浴槽への改修やバスボードなどの福祉用具の利用を検討する	
3	作業療法士 理学療法士	自室に荷物が多く移動しづらい	家具の配置変更と安全な動線の確認を行う	
4	作業療法士 理学療法士	入浴しにくい	使用状況を評価し、入浴方法の指導と環境整備をする	
5	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	畳に座っていると立ち上がりにくい	評価に基づき、昇降機能付き座イスを導入する	
6	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	移動動線（居室からトイレ、居間）に不安がある	移動動線を確認し、必要に応じて手すり等の設置や家具の配置変更を提案する	

7	ケアマネジャー	身体的な問題で部屋の片付け、整頓ができない	定期的にヘルパーに清掃をお願いする	
8	ケアマネジャー 作業療法士 看護師 ホームヘルパー	入浴が困難で、高齢の妻にも負担がかかる	入浴の状況を評価し、適切な改造および福祉機器の導入、および人的支援を検討する	自宅での入浴が本当に必要なのかを検討する
9	ケアマネジャー	自宅で入浴できない	通所サービスや入浴サービスの利用を促す	

④安全な住居環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	玄関で転倒の恐れがある	玄関での移動方法を調査し、状況に応じた改修を行う	
2	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	自宅内で転倒が頻回にある	転倒の原因を調査し、状況に応じた改修と歩行機器の導入を行う	
3	作業療法士 理学療法士	部屋が2階であり上り下りがつらい	部屋を1階に調整する	階段昇降機設置等の方法も検討する
4	作業療法士 理学療法士	道路から玄関までの道が遠く、複雑である	出入口を縁側に移動する、簡易な手すりや階段を設置するなどの方法を検討する	
5	作業療法士 理学療法士	夜間転倒の恐れがある	危険な場所等を評価し、照明などの改修を行う	
6	作業療法士 ケアマネジャー	独居で空焚きが頻発し、火災の恐れがある	本人の身体・精神能力等を評価し、IHコンロを導入するよう指導する	ヘルパーの導入や独居の継続そのものについて

				でも検討する
7	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	室内に段差が多い	本人の身体能力等を評価し、状態に応じた改修と移動方法の指導を行う	
8	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	片麻痺のため立位で浴槽をまたぐことができず、転倒の危険性が高い	バスボード等福祉用具の選定・適合と手すりの設置等改修を行う	自宅での入浴が本当に必要なのかを検討する
9	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	在宅生活で危険な動作場面がある	危険な動作場面の環境の問題点をケアマネジャーや福祉機器業者に連絡・相談し、福祉機器やヘルパー等の福祉サービスの提案、住宅改修に着手する	
10	ケアマネジャー 作業療法士	認知面の低下等より、在宅生活で危険な動作場面がある	在宅生活での事故（例：火の後始末、徘徊による迷子）が予測される場合は、ケアマネジャーや家族に理解を促す。必要な場合は、ヘルパーやボランティア、民間サービス等の利用を勧める	
11	ケアマネジャー 作業療法士	住宅環境に危険や不安を抱いている	手すりの設置などの身体状況にあった特別な住宅改善が必要であると判断された場合は、家屋調査による評価を行う。評価の結果をケアマネジャーや福祉機器業者に連絡・相談し、福祉機器やヘルパー等の福祉サービスの提案、住宅改修に着手する	

12	作業療法士 理学療法士	対象者の移動動線に物が多く置いてあり、転倒の恐れがある	移動動線を確認し、移動動線に物を置かなくてもよいように整理を促す	
13	ケアマネジャー	持ち家が古くなり住めなくなった。まとまったお金が無いので改修もできない	軽費老人ホームや養護老人ホームなどの施設入所の申請を勧める	公的機関への相談や同居可能な家族の有無も検討する
14	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	廊下で転倒の恐れがある	歩行の状態を評価し、必要に応じて機能訓練を実施する、また、滑り止め付きの靴下を履く、スリッパは使用しない、など危険回避の方法を提供する	

⑤経済的に安定している環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	年金収入のみで生活 が苦しい	医療費のみ公的扶助を申請する。症状固定後に身体障害者手帳申請し、医療費を手帳にて負担する	
2	ケアマネジャー	低所得である	免除になるサービスがないか相談する	
3	ケアマネジャー	現状のサービス料金が高額である	必要なサービスの見直しを図る	
4	ケアマネジャー 支援相談員	生活補助の恩給のみで、生活が苦しい	現在のサービスを見直し、バランスよくケアプランを立案する	
5	支援相談員	年金収入のみで生活 が苦しい	現在利用中の制度を確認し、公的扶助の申請を検討する	
6	作業療法士 ケアマネジャー	住宅改修の費用を払うことにゆとりがない	介護保険制度や行政による経済的支援があることを本人、家族に詳しく説明し、有効活用を検討する	

7	訪問リハビリ 管理者	特定疾患対象者である	訪問リハビリサービスにて公費対象となる場合、ケアマネージャーへ伝え、サービス利用分を公費対象とする	
8	ケアマネージャー	年金を借金返済に回しているため介護サービスの自己負担分さえも支払えない	介護保険以外で援助できる制度を検討する	
9	ケアマネージャー	介護保険の利用も負担になる	現在の利用状況と本人の状況の双方を再検討し、利用負担の軽減を図る	
10	作業療法士	娯楽にお金をかけすぎてしまう	現実検討能力、金銭管理能力について評価し、必要であれば訓練する	状況に応じて他職種の関与も検討する

⑥医療・福祉サービスを適切に利用できる環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	支援相談員	在宅リハビリの希望がある	対象者の生活や心身の状況を確認し、リハビリサービスを提供している事業所を調整する	
2	ケアマネージャー	複数の疾患があり、どの医者にかかればいいのか迷っている	かかりつけ医を紹介する	
3	ケアマネージャー	どんなサービスがあり、自分には何が合っているのかわからない	現状を話し、適切なサービスを紹介する	
4	ケアマネージャー	失語症のためSTを受けたい	区の制度を確認し、訪問STを設定する	
5	作業療法士 理学療法士 ケアマネージャー	ゴミが出せない	区の制度を確認し、ごみ出しサービスを紹介する	

6	ケアマネジャー 支援相談員	通所リハビリの希望がある	支援相談員とケアマネジャーが連携をとり、通所リハビリに通えるように設定する	
7	ケアマネジャー 支援相談員	身寄りがいなく、介護を必要とするが在宅生活を希望している	支援相談員とケアマネジャーが連携をとり、訪問・通所サービスを利用できるように設定する	
8	ケアマネジャー 看護師 作業療法士 理学療法士 ケアワーカー ヘルパー	褥瘡の可能性が高まってきた	担当者会議を実施し、評価に基づき処置や福祉用具等の必要なサービスを検討する	
9	作業療法士	対人交流が困難である	カンファレンスの場等で、本人のこゝろ（友好関係にある人物、本人の性格）をスタッフに伝達し、本人にあった交流の場を提供するように促す	
10	作業療法士 ケアマネジャー 支援相談員	福祉サービスの利用方法がわからない	OTR が説明できることは直接本人に説明し、それ以外は相談できる職種（ケアマネジャー、相談員等）を紹介する	訴えを聴取したのが OTR であった場合だが他職種でも同様である
11	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	通所介護を利用中で、さらに通所サービスでのリハビリ利用希望がある	希望を十分に聞き取りした上で、通所リハビリの提案を行う	
12	理学療法士 作業療法士	デイケアを利用しているが、病院のリハビリを受けたいという希望がある	デイケアに勤務する療法士と相談し、本人が満足できるアプローチ方法を再考する	かかりつけ医に判断を仰ぎ、説明してもらう

				ことも検討する
13	ケアマネジャー	入浴回数の増加を望んでいる	入浴サービスの利用状況を確認し、ニーズに対応した利用を検討する	
14	ケアマネジャー 支援相談員	腰の痛みを取るためのサービスを利用したいという希望がある	整形外科の受診を勧める。通所・訪問リハビリの利用を促す	
15	ケアマネジャー	スムーズに歩きたいという希望がある	通所・訪問リハビリの利用を促す	

2. 相互交流環境に対する介入ガイドライン

⑦人の役に立てる環境				
No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	時間を持て余している	老人ボランティア等を紹介し、有意義な時間を使えるよう支援する	
2	ケアマネジャー 作業療法士	物づくりが得意だが、披露する場がなく張り合いに欠ける	デイサービス等の場を利用し、披露できる機会を提供する	
3	作業療法士 ケアワーカー	やりがいのある活動がない	本人の個人因子を検討し、自己有能感が得られるような活動を模索する	世話焼き行為の強化にならないよう注意する
4	作業療法士	人に迷惑をかけないことが役割であると考えている	役割チェックリストを用いて過去から未来にわたって役割について見直し、現在でも意外な役割があることに気付いてもらう	
5	作業療法士	通所サービスの場で、やりがいのある活動がない	過去・現在・未来の興味や役割を聴取・評価し、その興味や役割に関連し	

				た活動を個別リハの場で提供する	
6	作業療法士	在宅生活での役割がない		過去・現在・未来の興味や役割を聴取・評価し、在宅生活で果たせる可能性のある役割について検討する。また、その役割が実現できるか否かを家族に相談することを勧める。本人が家族に相談できない場合は、OTRが家族との相談の場をもつ	
7	作業療法士 理学療法士	受傷前は仕事を行っていたが、受傷後行えなくなった		現在の身体状況を評価し、仕事内容を評価した上で、可能な仕事内容を模索し、状況に応じて代償方法を提案する	
8	ケアマネジャー 作業療法士	一人暮らしで人の為にできないことがない		通所サービスなどの利用を促し、集団生活の中で役割を見つける	地域でのボランティア活動などの紹介も検討する

⑧友人・知人と関係が良い環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	同じ趣味の人と話がしたいが機会がない	サークル活動等の場への参加機会を提供する	
2	ケアマネジャー	新しい友人を作りたいが機会がない	デイサービスやサークル活動を紹介する	
3	ケアマネジャー 支援相談員	外出する機会がなく友人ができない	通所サービスに通い、多くの人と出会う機会を設定する	
4	作業療法士	利用者同士の交流の機会を求めている	同じ考えの利用者を集め、定期的な活動の機会を設ける	多職種の間が望ましい

5	作業療法士	施設生活や通所サービスの場で、友人がいない（少ない）	個別リハを通じて、本人が少しでも関わることのできる人物との作業を提供する	
6	作業療法士 理学療法士	友人と会うことが難しい	外出状況（能力・頻度）を把握した上で、外出方法を提案する	
7	作業療法士 ケアマネージャー 支援相談員	耳が遠いので相手の話が聞き取りにくい	状態を把握した上で、補聴器の使用を提案する	医療機関への受診も勧める
8	ケアマネージャー 作業療法士	友人との交流がない	地域のサービスは、仲間と同一の日に利用できるようにする	
9	作業療法士	外出機会が減って友人と会わなくなった	お茶会の企画などを立て、外出して集まる機会を作る	

⑨集まって人と交流しやすい環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネージャー	交流の場がわからない	交流できる行事やデイサービスなどを紹介する	
2	作業療法士 理学療法士 ケアワーカー	他者と交流しにくい	小グループ活動（料理・皮細工など）に誘導し、共通の話題などを作る	
3	作業療法士	施設生活や通所サービスの場で、対人交流が少ない	個別リハを通じて、本人が少しでも関わることのできる人物との作業を提供する	
4	作業療法士	施設生活や通所サービスの場で、対人交流が少ない	本人が無理を感じない程度で、レクリエーション等の集団活動の場に参加することを勧める	
5	作業療法士	施設生活や通所サービスの場で、対人交流が少ない	本人が少しでも関わりの持てる人物の近くの座席に座ってもらうよう介護職に依頼する	

6	作業療法士 理学療法士 支援相談員 ケアマネージャー	病気のことや障害の ことで話しがしたい	患者会等を紹介し、参加 を提案する	
7	ケアマネージャー	デイケアに参加して いるが、参加者の中に 苦手な人がある	参加日や時間の変更を施 設側と検討する	
8	ケアマネージャー 作業療法士	気の合う仲間と何か、 一緒にやってみたい	公的、あるいは非公的な 地域の交流の機会を提供 し、地域レベルで支援す る	民生委員へ も協力を依 頼する
9	ケアマネージャー	お祭りのような町の 行事に一人で参加で きない	ボランティア等のインフ ォーマルサービスを調整 する	

⑩外出しやすい環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネージャー 作業療法士	近隣に利用しやすい 交通機関がなく、通院 が困難である	介護保険にて通院乗降介 助（訪問介護）を調整す る	訪問介護を 利用するこ とで乗降可 能な交通手 段を確保す る。難しい 場合は介護 タクシーや 訪問診療の 利用を検討 する
2	ケアマネージャー 作業療法士	近隣に利用しやすい 交通機関がなく、買い 物が困難である	介護保険にて訪問介護を 調整し、同行や介助にて 買い物を支援する	宅配サービ スの利用も 検討する
3	ケアマネージャー	自ら出かけることが 億劫で外出頻度が少 なくなっている	送迎のあるデイサービス などを紹介する	
4	ホームヘルパー	一人では外出できな い	利用者と共に行動し、利 用者の安全を図る	リハビリス タッフから 外出時の注

				意点等を申し送る
5	作業療法士	行きたいところまで どう行けばいいかわからない	交通手段を検討し、安全 で便利な方法を指導する	高次脳機能 障害の有無 を確認する
6	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー ケアワーカー ヘルパー	玄関の上り框が高く、 車いすでは昇降が困 難である	段差昇降機やスロープ等 の選定・適合とその使用 方法について指導する	
7	作業療法士 理学療法士	玄関や自宅前での移 動に危険や不安を感 じる	個別リハを通じて、支障 や危険のある動作の確認 を行い、安全な動作の練 習を行う	
8	作業療法士 理学療法士	外出するために、乗り 物に乗らなければな らないが、料金がかか り外出が億劫となる	身体障害者手帳の制度を 紹介する	バスやタク シー、公共 施設の割引 サービスを 紹介する
9	作業療法士 理学療法士 ケアマネジャー	百貨店へ行きたいが 店内が広いので行き づらい	百貨店での車椅子レンタ ルサービスなどを紹介 し、外出を促す	
10	作業療法士 理学療法士	自動車への乗り降り が行いにくい	身体状況を評価した上 で、福祉車両の紹介を行 う	
11	ケアマネジャー 作業療法士 理学療法士	近隣のスーパーへ買 い物に行くことが不 安である	援助が必要な内容を評 価・申し送りし、サービ ス手配を行う。もしくは 家族への介助指導を行う	
12	ケアマネジャー	田舎で交通機関がな く、通院に困る	介護タクシーを紹介する	訪問診療の 利用も検討 する
13	ケアマネジャー	外出したいと思いが あるが、実際に車の運	外出に向けた支援を行う ため、適切な人やサービ	

	作業療法士 理学療法士	転ができないし、妻も 運転ができず、外出で できない	スを手配する	
14	ケアマネジ ャー	交通量の多い道を通 らなくてはならず 不安がある	外出介助等のサービス を提供する	
15	作業療法士 理学療法士 ケアマネジ ャー	バスの乗り降りが難 しく、利用できない	乗り降りの動作について 評価をし、必要な機能訓 練を実施する	

⑩必要な情報を得られる環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジ ャー	欲しい情報はあるが、 どこに問い合わせれ ばいいのかわから ない	近場や近所の事業所を紹 介する	公的機関の 紹介も検討 する
2	作業療法士 ケアマネジ ャー	漠然とした不安があ る	何が一番必要な情報か共 に話し合い、情報を絞り 込む	
3	支援相談員 作業療法士 ケアワーカー	新しいサービスに不 安がある	本人の不安を聞き、すで に利用している利用者か ら情報が得られるように 場を設定する	
4	看護師 作業療法士 理学療法士 ケアワーカー	健康について情報が 混乱し、どれを選択し ていいのかわからな い	必要な情報をもつ専門家 への問い合わせ方法を整 理する	
5	作業療法士 理学療法士	福祉用具にどのよう なものがあるのかわ からない	介護普及センターなどの 公共機関を紹介する	
6	作業療法士	視力が悪くなり、テレ ビの映像が見れなく なった	ラジオや有線放送などテ レビに代わる情報入手手 段を検討する	医療機関へ の受診も勧 める
7	医師 看護師 作業療法士 理学療法士	自分の病気に関する 情報が欲しい	専門職が説明をしたり、 情報が得られるような本 を紹介する	

⑫外の人と自由に通信できる環境				
No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	作業療法士 ケアマネジャー	一人暮らしで緊急時の連絡が不安である	本人の身体・精神能力を評価し、高齢者安心コールを紹介する	
2	作業療法士	同じ病気の人たちと情報交換してみたいが病気のためなかなか外出できないし、方法が分からない	患者会の存在やインターネット上でのコミュニティの存在を紹介し、机の高さ等環境設定を含め、一緒にインターネットで検索する	必要に応じて、検索結果に対する助言や支援者自身が所持している情報も提供する
3	作業療法士	携帯電話のメールなどが上手に使えない	個別リハを通じて、操作方法の練習を行う	
4	作業療法士	外部との連絡が乏しい	パソコンメールや携帯メール、インターネットの使用方法を指導する	本人が電子機器に抵抗を感じないか確認する
5	作業療法士 支援相談員	固定電話を引いているが、電話口まで遠くそこまで行くのが大変である	固定電話の場所移動やコードレス電話への使用変更などを検討する	
6	作業療法士	構音障害があるが電話しか持っていない	手紙や E-Mail といった代替案を提供する、それの使用方法を指導する	可能であれば FAX の導入も検討する

3. 家族環境に対する介入ガイドライン

⑬家族関係が良好な環境				
No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジャー	常時の介護は家族の心理的負担が大きい	定期的なショートステイサービスの利用を勧める	通所サービスの利用も検討する

2	作業療法士	家族間の話題がなく、つまらない	デイケアなどで作品を作ったりし、話題提供の一部として活用する	材料費がかかる場合は事前に検討する
3	ケアマネジャー	家族仲が良くない	ケアハウス等の利用の検討により、生活を見直す	経済面を考慮する。他サービスの利用も検討する
4	ケアマネジャー	家族に気を遣う生活である	お互いの気分転換のためにもショートステイの利用を勧める	通所サービスの利用も検討する
5	支援相談員 ケアマネジャー	介護者が疲労している	短期入所などを勧め、介護者休養を支援する	
6	ケアマネジャー 支援相談員	家族より虐待を受けている疑いがある	短期入所などにより、両者間の距離を置く	保健師の介入依頼も検討する
7	作業療法士	時々訪問してくるひ孫が自分の周りを暴れまわり、転ばされるのではないかと思うと「来てほしくない」と思ってしまう	ひ孫と家族に対象者の機能低下について説明する機会を設け、対象者の周りでは暴れ回らないよう伝える	
8	作業療法士 看護師 ケアマネジャー	本人が家族との生活に不安をもっている	不安の理由について聴取する。家族に本人の不安について、相談できる場合は（本人に支障がないことを吟味した上で）、相談する。家族に相談できない場合は、ケアマネジャーに相談し、改善策を検討する	
9	作業療法士 看護師 ケアマネジャー	家族が本人との生活に不安を抱いている	不安の理由について、聴取する。本人に家族の不安について、相談できる場合は（本人に支障がな	

			いことを吟味した上で), 相談する	
10	作業療法士 理学療法士 医師 看護師	家族に障害が十分に 理解されていない	家族に対象者の状況を説 明し, 理解をしてもらう	
11	支援相談員 ケアマネジ ャー	キーパーソンが時々 介護を放棄する	キーパーソンに介護の必 要性を理解してもらえる よう相談を持ちかける. 不可能であれば社会資源 の活用を提案を行う	
12	ケアマネジ ャー	同居家族への介助負 担をかけてしまい折 り合いが悪い	介護負担を軽減できるツ ールや方法が無いが, OTR や RPT に相談する	

⑭一緒に生活する人がいる環境

No	担当職種	介入前の状況	具体的な介入方法	注意点など
1	ケアマネジ ャー 作業療法士 理学療法士	両片麻痺で歩行不安 定だが一人暮らしを している	ヘルパーや通所介護, 外 来リハビリ, タクシー(同 じ運転手)を調整する	
2	ケアマネジ ャー	一人の生活に疲れる ことがある	ショートステイの利用を 勧めたり, ケアハウスの 紹介を行う	通所サービ スの利用も 検討する
3	支援相談員 ケアマネジ ャー	一人暮らしに不安が ある	通所サービスを紹介し, 見学を勧める	
4	支援相談員 ケアマネジ ャー	一人暮らしに不安が ある	グループホームを紹介 し, 見学を勧める	
5	作業療法士 ケアマネジ ャー	一人ぐらして何でも 自分でやってきたが, 最近お風呂に入るの	ADL 評価によって自立 レベルではないことを確 認し, ケアマネージャー	通所サービ スでの入浴 も検討する

